在宅診療 NOW

介護療養に対する医療の手

年末年始は愛読書の文藝春秋の読めていなかった記事を、数月分読んでいました。特に気になったのは五木寛之氏の《2022年のうらやましい死に方　読者投稿》や、小平市で在宅診療をなさってこられた山崎章郎先生のインタビューで、《死後の世界はあってほしい》などがありました。

《うらやましい死に方》のエピソードとしては、引退したお医者さんで趣味のカメラを抱えて公園に行き、ベンチに座ったまま眠るように亡くなったという方のエピソードや、片足を足浴しながら、もう片方の足浴をしようとした時にふっと気持ち良くなり亡くなってしまった方のエピソードなど、苦しむことなく最期を迎えることに読者の共感が集まっている印象を受けました。

また山崎先生のインタビューでは、ご自身ががんになり、患者という立場になってから、病院での治療をやり尽くし、最期を迎えることのやるせなさについてお話をされていました。これらの話からは、平均寿命から健康寿命を差し引いた介護療養期間の医療のあり方や、患者さんやご家族の心の機微を捉えながら、どのように医師が関わっていくかが患者さん一人ひとりの人生後半の満足度に関わっていく気がしました。

患者さんは、我々・在宅医療が関わることで、自宅で心豊かになる時がどれくらいあるのだろうか、また、どれくらい不安が解消されているのだろうか――。我々としては、常に自宅でできる検査や治療の可能性を広げ、患者さんの症状が良くなったときには一緒に喜び、苦しいときには一緒に苦しみ、また心の面でも、患者さんの不安を出来るだけ和らげられるように、ご本人、ご家族としっかり向き合い、患者さんの人生の介護療養期間や終末期を少しでも豊かなものにしたいと思っています。どれくらい尽くし切れているかは分かりませんが、患者さんの良き人生の伴走者でありたいと思っています。

松原 清二医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長

総合内科専門医・循環器内科医

・日本循環器学会専門医

・日本内科学会認定医

・認知症専門医

・認知症サポート医

［まつばらホームクリニック］

☎042-439-1250

西東京市東町 4-14-18-2F

（訪問中のため不在が多い）

■電話対応：午前9:00～午後6:00

■定休日　：土日（祝日は診療）

■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック　検索